



Cisco ISE のインストール

- [CIMC を使用した Cisco ISE のインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco ISE のセットアッププログラムの実行 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco ISE インストールプロセスの確認 \(9 ページ\)](#)

CIMC を使用した Cisco ISE のインストール

このセクションでは、Cisco ISE を簡単にインストールするための基本的なインストール手順を提供します。

始める前に

- 本書で指定されているとおりに「[システム要件](#)」を満たしていることを確認します。
- (オプション : Cisco ISE を仮想マシンにインストールする場合にのみ必要) 仮想マシンを正常に作成したことを確認します。詳細については、次のトピックを参照してください。
 - [#unique_43](#)
 - [#unique_44](#)
 - [Hyper-V での Cisco ISE 仮想マシンの作成](#)
- (オプション : Cisco ISE を SNS ハードウェア アプライアンスにインストールするときのみ必要) Cisco Integrated Management Interface (CIMC) 設定ユーティリティを設定して、アプライアンスを管理し、BIOS を設定していることを確認します。詳細については、次のマニュアルを参照してください。
 - SNS3500 シリーズ アプライアンスについては、『[Cisco SNS-3500 Series Appliance Hardware Installation Guide](#)』を参照してください。
 - SNS-3600 シリーズ アプライアンスについては、『[Cisco SNS-3600 Series Appliance Hardware Installation Guide](#)』を参照してください。

ステップ 1 Cisco ISE を次のものにインストールするには、

- Cisco SNS アプライアンス : ハードウェア アプライアンスをインストールします。サーバー管理用の CIMC に接続します。
- 仮想マシン : VM が正しく設定されていることを確認します。

ステップ 2 Cisco ISE ISO イメージをダウンロードします。

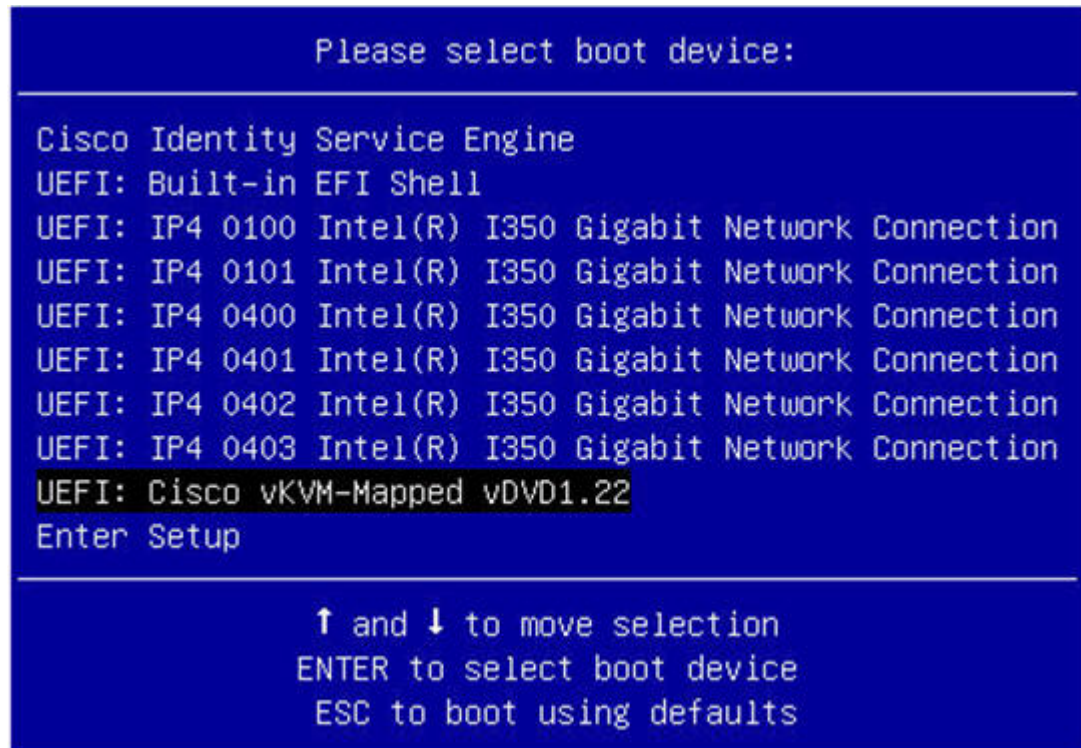
- a) <http://www.cisco.com/go/ise> にアクセスします。このリンクにアクセスするには、有効な Cisco.com ログインクレデンシャルが事前に必要です。
- b) [ソフトウェアダウンロード (Download Software for this Product)] をクリックします。

Cisco ISE イメージには、90 日間の評価ライセンスがすでにインストールされた状態で付属しているため、インストールおよび初期設定が完了すると、すべての Cisco ISE サービスのテストを開始できます。

ステップ 3 アプライアンスまたは仮想マシンを起動します。

- Cisco SNS アプライアンス。
 1. CIMC に接続し、CIMC クレデンシャルを使用してログインします。
 2. KVM コンソールを起動します。
 3. [仮想メディア (Virtual Media)] > [仮想デバイスのアクティブ化 (Activate Virtual Devices)] の順に選択します。
 4. [仮想メディア (Virtual Media)] > [CD/DVD のマッピング (Map CD/DVD)] の順に選択し、ISE ISO イメージを選択して [デバイスのマッピング (Map Device)] をクリックします。
 5. [マクロ (Macros)] > [静的マクロ (Static Macros)] > [Ctrl-Alt-Del] の順に選択して、ISE ISO image でアプライアンスを起動します。
 6. F6 を押して、ブートメニューを起動します。次のような画面が表示されます。

図 1: ブートデバイスの選択



(注) SNS アプライアンスがリモートロケーション（データセンターなど）に配置されている場合で、その場所に対する物理的なアクセス権がなく、リモートサーバーから CIMC インストールを実行する必要がある場合、インストールに時間がかかることがあります。インストールプロセスを高速化するために、USB ドライブに ISO ファイルをコピーし、そのリモートの場所で使用することをお勧めします。

• 仮想マシン。

1. CD/DVD を ISO イメージにマッピングします。次のような画面が表示されます。次のメッセージとインストールメニューが表示されます。

```
Welcome to the Cisco Identity Services Engine Installer
Cisco ISE Version: 3.0.0.xxx
```

```
Available boot options:
```

```
Cisco ISE Installation (Serial Console)
Cisco ISE Installation (Keyboard/Monitor)
System Utilities (Serial Console)
System Utilities (Keyboard/Monitor)
```

ステップ 4 シリアル コンソールを使用して Cisco ISE をインストールするには、ブートプロンプトで **1** および Enter キーを押します。

キーボードとモニターを使用する場合は、矢印キーを使用して、[Cisco ISE のインストール (シリアル コンソール) (Cisco ISE Installation (Serial Console))] オプションを選択します。次のメッセージが表示されます。

```
*****
Please type 'setup' to configure the appliance
*****
```

- ステップ 5** プロンプトで、**setup** と入力し、セットアッププログラムを起動します。セットアッププログラムパラメータの詳細については、「[Cisco ISE のセットアッププログラムの実行 \(4 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 6** セットアップモードでネットワーク設定パラメータを入力すると、アプライアンスが自動的に再起動し、シェルプロンプトモードに戻ります。
- ステップ 7** シェルプロンプトモードを終了します。アプライアンスが起動します。
- ステップ 8** 「[Cisco ISE インストールプロセスの確認 \(9 ページ\)](#)」に進みます。

Cisco ISE のセットアッププログラムの実行

ここでは、ISE サーバーを設定するためのセットアッププロセスについて説明します。

セットアッププログラムでは、必要なパラメータの入力を求める、対話型のコマンドラインインターフェイス (CLI) が起動されます。管理者は、コンソールまたはダム端末とセットアッププログラムを使用して、ISE サーバーの初期ネットワークを設定し、初期管理者資格情報を設定します。このセットアッププロセスは一度だけ実行する設定作業です。



- (注) Active Directory (AD) と統合する場合は、ISE 専用で作成された専用サイトから IP アドレスとサブネットアドレスを使用することをお勧めします。インストールと設定を行う前に、AD を担当する組織のスタッフに相談し、ISE ノードの関連する IP アドレスとサブネットアドレスを取得します。



(注) システムが不安定になる可能性があるため、Cisco ISE のオフラインインストールの試行は推奨しません。Cisco ISE のインストールスクリプトをオフラインで実行すると、次のエラーが表示されます。

NTPサーバーとの同期に失敗しました。時刻が正しくないと、再インストールされるまで、システムは使用できなくなる可能性があります。(Sync with NTP server failed' Incorrect time could render the system unusable until it is re-installed.) 再試行? はい/いいえ [はい] (Y/N [Y]:)

[はい (Yes)]を選択してインストールを続けます。NTPサーバーとの同期を再試行するには、[いいえ (No)]を選択します。

インストールスクリプトの実行中に、NTPサーバーとDNSサーバーの両方とのネットワーク接続を確立することを推奨します。

セットアッププログラムを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ1 インストール用に指定されているアプライアンスをオンにします。

次のセットアッププロンプトが表示されます。

```
Please type 'setup' to configure the appliance
localhost login:
```

ステップ2 ログインプロンプトで **setup** と入力し、Enter を押します。

コンソールにパラメータのセットが表示されます。次の表の説明に従って、パラメータ値を入力する必要があります。

(注) IPv6アドレスをもつドメインネームサーバーまたはNTPサーバーを追加する場合は、ISEのeth0インターフェイスをIPv6アドレスで静的に設定する必要があります。

表 1: Cisco ISE セットアップ プログラム パラメータ

プロンプト	説明	例
Hostname	<p>19 文字以下にする必要があります。有効な文字には、英数字 (A-Z、a-z、0-9)、およびハイフン (-) があります。最初の文字は文字である必要があります。</p> <p>(注) Cisco ISE の証明書認証が、証明書による検証のわずかな違いの影響を受けないようにするために小文字を使用することをお勧めします。ノードのホスト名として「localhost」を使用することはできません。</p>	isebeta1
(eth0) Ethernet interface address	ギガビットイーサネット 0 (eth0) インターフェイスの有効な IPv4 アドレス またはグローバル IPv6 アドレスでなければなりません。	10.12.13.14/2001: 420: 54ff: 4:: 458: 121: 119
Netmask	有効な IPv4 または IPv6 のネットマスクでなければなりません。	255.255.255.0/2001: 420: 54ff: 4:: 458: 121: 119/122
Default gateway	デフォルトゲートウェイの有効な IPv4 アドレスまたはグローバル IPv6 アドレスでなければなりません。	10.12.13.1/2001: 420: 54ff: 4:: 458: 1
DNS domain name	IP アドレスは入力できません。有効な文字には、ASCII 文字、任意の数字、ハイフン (-)、およびピリオド (.) が含まれます。	example.com
Primary name server	プライマリ ネームサーバーの有効な IPv4 アドレスまたはグローバル IPv6 アドレスでなければなりません。	10.15.20.25 /2001: 420: 54ff: 4:: 458: 118

プロンプト	説明	例
Add/Edit another name server	プライマリ ネームサーバーの有効な IPv4 アドレスまたはグローバル IPv6 アドレスでなければなりません。	(オプション) 複数のネームサーバーを設定できます。これを行うには、 y を入力して続行します。
Primary NTP server	有効なネットワーク タイムプロトコル (NTP) サーバーの IPv4 アドレスまたはグローバル IPv6 アドレスまたはホスト名でなければなりません。 (注) プライマリ NTP サーバーがアクセス可能であることを確認してください。	clock.nist.gov / 10.15.20.25 / 2001:420:54ff:4::458:117
Add/Edit another NTP server	有効な NTP ドメインでなければなりません。	(オプション) 複数の NTP サーバーを設定できます。これを行うには、 y を入力して続行します。

プロンプト	説明	例
<p>System Time Zone</p>	<p>有効な時間帯でなければなりません。たとえば、太平洋標準時 (PST) では、システム時間帯は PST8PDT です (つまり、協定世界時 (UTC) から 8 時間を差し引いた時間)。</p> <p>(注) システム時刻とタイムゾーンが CIMC またはハイパーバイザホストの OS 時刻およびタイムゾーンと一致していることを確認します。タイムゾーン間に不一致がある場合、システムパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。</p> <p>サポートされているタイムゾーンのすべてのリストについては、Cisco ISE CLI から show timezones コマンドを実行できます。</p> <p>(注) すべての Cisco ISE ノードを UTC タイムゾーンに設定することをお勧めします。このタイムゾーンの設定により、デプロイメント環境におけるさまざまなノードからのレポート、ログ、およびポスチャエージェントのログファイルが、タイムスタンプで常に同期されるようになります。</p>	<p>UTC (デフォルト)</p>

プロンプト	説明	例
Username	Cisco ISE システムへの CLI アクセスに使用される管理者ユーザー名を特定します。デフォルト (admin) を使用しない場合は、新しいユーザー名を作成する必要があります。ユーザー名は、3～8 文字の長さで、有効な英数字 (A～Z、a～z、または 0～9) で構成される必要があります。	admin (デフォルト)
Password	Cisco ISE システムへの CLI アクセスに使用される管理者パスワードを特定します。デフォルトパスワードは存在しないため、続行するにはパスワードを作成する必要があります。パスワードの長さは 6 文字以上で、少なくとも 1 つの小文字 (a-z)、1 つの大文字 (A-Z)、および 1 つの数字 (0-9) を含める必要があります。	MyIseYPass2

(注) CLI でインストール中またはインストール後に管理者のパスワードを作成する際に、パスワードの最後の文字の場合を除いて文字「\$」を使わないでください。この文字が最初または後続の文字にあると、パスワードは受け入れられますが、CLI へのログインには使用できません。

誤ってこのようなパスワードを作成した場合は、コンソールにログインし、CLI コマンドを使用するか、ISE CD または ISO ファイルを取得して、パスワードをリセットします。ISO ファイルを使用してパスワードをリセットする手順は、次のドキュメントで説明されています。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/docs/security/identity-services-engine/200568-ISE-Password-Recovery-Mechanisms.html>

セットアッププログラムを実行すると、システムが自動的に再起動します。

これで、セットアッププロセスで設定したユーザー名とパスワードを使用して Cisco ISE にログインできるようになります。

Cisco ISE インストールプロセスの確認

インストールプロセスが正しく完了したことを確認するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 システムが再起動したら、ログインプロンプトでセットアップ時に設定したユーザー名を入力し、Enter を押します。

ステップ 2 新しいパスワードを入力します。

ステップ 3 アプリケーションが適切にインストールされていることを確認するために、**show application** コマンドを入力し、Enter を押します。
コンソールに次のメッセージが表示されます。

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise             Cisco Identity Services Engine
```

(注) このリリースの別のバージョンでは、バージョンと日付が変更されている場合があります。

ステップ 4 **show application status ise** コマンドを入力して ISE プロセスの状態を確認し、Enter を押します。
コンソールに次のメッセージが表示されます。

```
ise/admin# show application status ise
```

ISE PROCESS NAME	STATE	PROCESS ID
Database Listener	running	14890
Database Server	running	70 PROCESSES
Application Server	running	19158
Profiler Database	running	16293
ISE Indexing Engine	running	20773
AD Connector	running	22466
M&T Session Database	running	16195
M&T Log Collector	running	19294
M&T Log Processor	running	19207
Certificate Authority Service	running	22237
EST Service	running	29847
SXP Engine Service	disabled	
Docker Daemon	running	21197
TC-NAC Service	disabled	
Wifi Setup Helper Container	not running	
pxGrid Infrastructure Service	disabled	
pxGrid Publisher Subscriber Service	disabled	
pxGrid Connection Manager	disabled	
pxGrid Controller	disabled	
PassiveID WMI Service	disabled	
PassiveID Syslog Service	disabled	
PassiveID API Service	disabled	
PassiveID Agent Service	disabled	
PassiveID Endpoint Service	disabled	
PassiveID SPAN Service	disabled	
DHCP Server (dhcpd)	disabled	
DNS Server (named)	disabled	

```
ise/admin#
```